

プレイパーク活動がもつ遊び場の可能性—熊本市と他都市の比較を通じて—

熊本大学工学部 学生会員 ○西田 紘繁郎
熊本大学工学部 正会員 増山 晃太

熊本大学大学院 正会員 星野 裕司
熊本大学大学院 学生会員 尾野 薫

1. はじめに

1.1 背景

都市部を中心に遊び場の減少、遊びの画一化といった問題が生じている。このような問題を解決するために自由な遊び場をつくろうと 1970 年頃佐賀県唐津市や世田谷区でプレイパーク活動が始まった。活動は年々広がって現在全国で 300 以上の活動が行われており、子どもの遊び場問題において大きな存在となっている。その中でも熊本では現在 21 箇所の活動があり、全国の中でも活発であることが分かる。

1.2 目的

日本におけるプレイパーク活動の経緯を整理しつつ、各都市を比較し、熊本の地域性を見出す。また、活動が遊び場の在り方に対して一助となりえるか考察することを目的とする。

1.3 研究の方法

まず冒険遊び場とプレイパークの使い分けについてだが、明確な違いはなく曖昧であるためプレイパークに統一して述べることにする。プレーパークとプレイパークについても同様にプレイパークに統一する。プレイパークの基本情報については文献調査によりまとめる。各都市のプレイパーク活動の全体像の把握として日本冒険遊び場づくり協会に登録されているプレイパークを参照する。さらに運営形態や文献調査により得た基本情報に基づき、関係者に聞き取り調査を行う。運営、場所、団体、日時、広報、行政との連携を比較の観点として挙げる。

2. プレイパークの概要

2.1 プレイパークとは

本研究では子どもの遊び場の中でも冒険的で、多少の危険を伴うものの基本的には自由に遊びを構築させ、体験的な遊びを展開していく遊び場のことをプレイパークと定義する。デンマークでソーレンセン氏がエンドラップ廃材遊び場で始めた活動が世界初のプレイパークとなる。また、日本では経堂冒険遊び場より本格

的に始まった。

2.2 プレイパークの基礎情報

2.2.1 運営

地域住民が主体となってプレイパークを運営、維持管理を行う。行政は金銭的な助成が主である。

2.2.2 プレイリーダー

プレイパークには子どもの遊び相手であり、相談者でもある一回り年上の人間がいる。彼らをプレイリーダーと呼び、大学生や社会人のボランティアがほとんどである。職業になっている者もおり、プレイパークにおいて重要な役割を担っている。

2.2.3 開催の条件

場所としてはいつでも誰でも遊べるところであり、自然素材が豊かで作り替えの要素があることが条件である。運営形態としては地域住民と行政のパートナーシップを築くことが重要視されている。

2.2.4 プレイパークの種類

本研究ではプレイパークの種類を以下のように定義することとする。

完全常設型…場所が決まっており、プレイリーダーが常駐している。プレイパークが普段より自由な遊び場として機能している。

準常設型…場所が決まっているが、プレイリーダーは常駐していない。定期的にプレイパーク活動が開催され、普段も遊び場として機能している。

一日型…場所は常設されておらず、主催団体がイベント的にプレイパーク活動を開催している。

3. 熊本市におけるプレイパーク

3.1 熊本市での始まり

熊本市では 1988 年に江津湖公園でおもしろ村という名称で一日型として始まった。その後 1999 年に熊本市で主宰された青少年育成施策の一事業としてプレイパーク活動が本格的に始まり、最初に準常設型の長嶺プレイパークが開設した。熊本市のプレイパーク活動の開催場所をプロットしたものを図 1 に示す。



図1 熊本市のプレイパーク

3.2 熊本市におけるプレイパークの概要と分類

プレイパークは校区に一つという目標のもと現在 20 校区で開催されており、近くに小学校がある場合がほとんどである。また場所として河川敷、田んぼ、運動場、私有地など様々であるのが特徴である。行政は金銭的な援助とプレイリーダーの派遣を行う。また、市はプレイリーダーを養成している。一日型が多いのが特徴。広報の特徴として体験プレイパークがある。

4. 他都市のプレイパーク

4.1 比較対象都市の選出

遊び場活動の全体像の比較対象都市として表 1 に示す 4 都市を選出した。

表 1 比較対象都市

	地方都市	大都市
活動多	熊本市	東京 23 区
活動少	岡山市	福岡市

4.2 東京 23 区におけるプレイパーク

プレイパークは区ごとにいくつかあり、線路沿いに多いのが特徴である。世田谷区には完全常設型が多く全国のプレイパーク活動の中心ともいえる。行政は事業としてプレイパークと関わっており、公園の部分提供、助成金の援助を行っている。プレイリーダーは有給で雇用されており、世話人会などの組織も充実している。広報の特徴としてプレーカー事業がある。

4.3 岡山市におけるプレイパーク

完全常設型が一つだけあり、市役所、中区役所が近くにある。行政は助成金と公園の一部を提供している。プレイリーダーは養成しておらず東京での経験者を職員として雇っている。広報の特徴としてキッズフェスティバルを開催している。

4.4 福岡市におけるプレイパーク

場所の特徴として道路沿いが多い。一日型がほとんどである。プレイリーダーの他に学生プレイワーカーがいるのが特徴である。学生向けにプレイワーカー講座を開いている。

5. プレイパークの種類別に見る特徴

5.1 完全常設型の羽根木プレイパーク

プレイリーダーが常駐しており、閉園日以外は遊び場として賑わっている。平日は近所の子どもや親が多いが、休日は外から足を運んでくる家族も多い。

5.2 準常設型の長嶺プレイパーク

普段は公園のような役割であるが、休日になると近所の大人がプレイリーダーの変わりになるので火遊びや物作りをしている。近所の子ども、親が多い。

5.3 一日型の体験プレイパーク

ここでは熊本市が立田山野外保育センターの広場を使って開催する体験プレイパークを例として述べる。プレイパークのない校区のまちづくり団体や一般人に活動を知ってもらうという目的から始まった。遠方から来る家族連れが多い。

6. 考察

熊本市と他都市の共通点、相違点を分析し、熊本市の遊ぶ環境に対する特色を考察する。

【参考文献】

- 1) 日本冒険遊び場づくり協会
<http://www.ipa-japan.org/asobiba/>
- 2) 都市の遊び場[新装版],大村虔一,大村璋子訳,鹿島出版会,2009
- 3) Planning for play,Lady Allen of Hurtwood 著,Themes and Hudson,1968
- 4) 冒険遊び場がやってきた!羽根木プレーパークの記録,羽根木プレーパークの会/編,晶文社,1987
- 5) 熊本市青少年育成計画,熊本市発行,2000
- 6) NPO 法人プレーパークせたがや事業報告書,プレーパークせたがや,2011-2012